

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 愛知県立豊田東高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒471-0811
愛知県豊田市御立町11丁目1番地

E-mail : toyotahigashi-ko@pref.aichi.lg.jp

Website : http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/

児童生徒数:男子 94 名 女子 621 名 合計 715 名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません



3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (地域連携)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

愛知県立豊田東高等学校（総合学科）は、環境教育、国際理解教育、地域連携教育を3つの柱としてESDを推進している。

主体的かつ総合的な活動のできる人材育成を目指して、学校外の諸機関と連携して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題解決のためのスキルを身に付けるようにしている。また、2月には全校で「総合発表会」を開き、1年間の学びを全校生徒で共有している。

さらに、本年度は「ESD子どもフォーラム」や「高校生ESDコンソーシアム in 愛知」などで県内の多くの高校生とお互いの取組を発表し合い、意見交換を行った。ユネスコスクール世界大会高校生フォーラムの代表生徒は、ESDの普及・啓発を含む数々のイベントで成果発表を行っている。本年度は、ESD推進拠点校として、学び合いや発表の場が学校の外へも広がり始めた1年間であった。

以下に、本校の主な活動内容について、冒頭に述べたESDの3つの柱を含め、項目別にまとめて示す。

ア 環境教育

豊田東高校は文部科学省の事業であるSPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）を利用して、外部研究機関と連携した環境教育を実施している。地域の研究機関である豊田市矢作川研究所、名古屋大学や東京大学などの学術機関、矢作川水系森林ボランティア協議会や矢作川森林塾などの有志団体と連携を図っていることが特徴である。校舎の横を流れる「矢作川」をテーマに、野外調査を基本とした探究活動を実施している。

〔主な取組〕

7月8日 講演会①「森と川はつながっている～矢作川流域でいま、何が問題になっているのか～」

講師：豊田市矢作川研究所 内田朝子研究員・洲崎燈子研究員

対象：第2学年（240名）

場所：本校プレゼンテーションルーム

7月8日 講演会②「川遊びのススメ」

講師：阿部夏丸氏（作家・矢作川水族館館長）

対象：第1学年（240名）

場所：本校体育館

7月14日 矢作川さかな釣り大会

内容：写真科学部・科学班の有志（4名）によるイベント協力

場所：矢作川河畔 御立公園

8月8日 野外調査①「矢作川に侵入した外来生物」

講師：豊田市矢作川研究所 内田朝子研究員・白金晶子研究員

参加者：2年生理プラン（理系科目を中心に選択するグループ、15名）

本校のSPPに興味・関心を抱く中学2年生（1名）

場所：矢作川中流～上流域

8月20日 野外調査②「豊田市足助地区の森の健康診断」

講師：豊田市矢作川研究所 洲崎燈子研究員

矢作川水系森林ボランティア協議会 稲垣久義氏・高橋幸生氏

参加者：2年生理プラン（15名）

本校の SPP に興味・関心を抱く中学 2 年生（1 名）

場所：豊田市梨野町（足助地区）

10 月 17 日 講演会③「未来につづく河畔林の整備」

講師：NPO 法人矢作川森林塾 碓伸夫氏

国土交通省豊田市河川事務所 小林智氏

対象：第 1 学年（240 名）

場所：本校プレゼンテーションルーム

10 月 21 日 野外活動「せせらぎ協働プロジェクト～豊田東高校の裏庭を考
える～」

協働団体：NPO 法人矢作川森林塾，国土交通省豊田市河川事務所，
豊田市矢作川研究所

参加者：第 1 学年（240 名）

場所：矢作川河畔 御立公園

11 月 9 日 グループディスカッション「せせらぎプロジェクト」

講師：NPO 法人矢作川森林塾 碓伸夫氏

国土交通省豊田市河川事務所 小林智氏

対象：第 1 学年各クラス（40 名×6 クラス）

場所：本校各クラス教室

11 月 13 日 野外施設見学及び討論①「森・水・人のつながり～豊田市の変
遷と森の公益的機能～」

講師：東京大学大学院農学生命科学研究科 田中延亮氏ほか

対象：2 年生理プラン（15 名）

場所：東京大学附属演習林生態水文学研究所赤津研究林・赤津研究施設

12 月 20 日 野外施設見学及び討論②「未来を照らす木の灯り～持続可能な
社会とは～」

講師：名古屋大学大学院環境学研究科 高野雅夫氏ほか

対象：2 年生理プラン有志及びユネスコスクール世界大会高校生フォー
ラム代表生徒（8 名）

場所：豊田市里山くらし体験館「すげの里」

2 月 1 日 豊田市矢作川研究所 20 周年記念シンポジウム

内容：平成 20 年度から現在までの SPP 活動をまとめたポスター発表

発表者：3 年生理プラン代表（2 名）

場所：JA あいち豊田ふれあいホール

3 月 1 日 矢作川学校ミニシンポジウム

内容：ESD をテーマにした今年度の SPP 活動に関する口頭発表

発表者：2 年生理プラン有志（5 名）

場所：豊田市産業文化センター

イ 国際理解教育

豊田東高校は、オーストラリアパスコベール女子高等学校との姉妹校交
流やマレーシアへの海外修学旅行など、国際理解教育が盛んな学校である。
パスコベール女子高とは、今年度から文通交流も開始した（月 1 回のペー
スで手紙をやり取りする交流で、51 名の生徒が参加）。また、豊田市を訪れ
る海外派遣団が、高校を訪問する際の「窓口」としての役割も担い、今年
度は中国江蘇省の高校生友好使節団やイギリスのダービーシャー吹奏楽団
を受け入れて交流事業を実施した。

〔主な取組〕

4月～10月 総合的な学習の時間を利用して、異文化理解研究を実施。
マレーシアの文化について調査・探究し、現地での交流計画を立案。

対象：第2学年（240名）

7月17日 中国江蘇省高校生友好使節団の受入れと交流（全校）

7月20日～31日 オーストラリアパスコベール女子高等学校訪問

参加者：代表生徒16名，引率教員3名

10月23日～26日 マレーシア海外修学旅行

対象：第2学年（240名）

10月31日 イギリスダービーシャー吹奏楽団の受入れと交流（全校）

11月9日 日本在住のマレーシア人講師による講演会（修学旅行の振り返り）

対象：第2学年（240名）

3月3日 マレーシア人とのお料理交流

対象：第2学年調理・栄養プラン（27名）

3月7日 マレーシア連邦土地開発局（FELDA）による学校視察受入れ

ウ 地域連携事業

豊田東高校は、豊田市中心の桜町本通り商店街との連携をはじめ、様々な地域連携事業に参画している。桜町本通り商店街との連携では、ビジネスプランの生徒が街路灯用のフラッグを制作した。また、美術部、書道部の生徒が同商店街に灯すあんどんの絵付けを行い、これは本校の総合発表会（2月）のフットライトとしても利用された。

保育プランの生徒は、崇化館交流館における「子どもが主役 崇化館」の企画・運営にも携わった。

調理・栄養プランの生徒は、獣害問題にもなっているイノシシの肉とミネアサヒの米粉（地産地消）を利用した「いのっちもちもち」を考案した。この料理はどんぐりの里いなぶの協力のもとで商品化され、実際に販売されるなど、本年度は産学連携事業も開始した。

以上のように、本校の地域連携は、部活動によるボランティア参加のほか、各科目選択プランの授業実践の場として機能している。

〔主な取組〕

5月26日 ふれ愛フェスタ 2013

内容：駅前商店街の活性化イベントにおける催し物の企画・運営

参加者：保育プラン（31名），服飾プラン（9名），写真科学部・科学班（10名），美術部（11名），JRC部（24名），家庭部（38名）

場所：桜町本通り商店街

7月7日 とよた下町おかみさん会「七夕まつり」

内容：地域まつりにおける催し物の企画・運営と販売補助

参加者：JRC部有志（6名）

場所：三河別院拳母支院

8月8日，9月8日，12月8日，3月8日 チーム八日市

内容：桜町本通り商店街において，毎月8日に開かれる「八日市」が学校休業日と重なったときに，販売補助や部活動の野外発表を実施

参加者：常時20名規模の有志参加に加え，9月は合唱部（17名），12月

は吹奏楽部（31名）、3月は箏曲部（13名）が野外コンサートに参加

場所：桜町本通り商店街

10月12日 豊田市環境学習施設 eco-T「かえっこバザール」

内容：子ども向けのおもちゃのリユースイベントの運営補助

参加者：保育プランを中心とする有志（19名）

場所：鞍ヶ池公園プレイパーク

12月1日 いなかとまちの文化祭

内容：都市と農山村の交流を図る市民活動グループの駅前イベントにおいて、部活動の野外コンサートを実施

参加者：吹奏楽部（31名）、合唱部（13名）

場所：豊田市駅前シティプラザ及びペDESTリアンデッキ

12月14日 レッドリボンメッセージコンサート

内容：豊田市、ソロプチミスト豊田と連携した12月のエイズ防止キャンペーン

参加者：JRC部、合唱部、吹奏楽部

場所：豊田市駅前通り

3月2日 梅坪小学校地区子ども会合同歓送迎会

内容：3つの子ども会が合同で実施する歓送迎会（260名規模）において、吹奏楽部の演奏及び保育プラン生徒による児童劇の実施

参加者：吹奏楽部（34名）、保育プラン3年卒業生（25名）

場所：梅坪小学校体育館

エ 校内研修及び授業実践

豊田東高校は、平成25・26年度国立教育政策研究所の研究指定校として、ESDに関する研究を行っている。研究主題は「新学習指導要領を踏まえた総合学科におけるESDの体系的な推進及び各教科等における効果的な指導と評価の在り方に関する研究」である。これを受けて、各教科でESDの視点を取り入れた授業実践を展開した。

〔主な取組〕

5月14日 校内研修会「ESDって何？」

「当たり前」の教育活動を「意識的に」というキャッチフレーズをもとに、教員間の共通理解を深める研修会を実施した。また、これに先立って、生徒・教員を対象としたアンケート調査を実施した。

1月9日 国立教育政策研究所及び愛知県教育委員会の学校視察

授業実践の一例として、次の3つの研究授業を実施した。

- ・生物基礎「豊田市の獣害について考える」
- ・基礎看護「終末期医療を考える～特に小児終末期医療から」
- ・異文化理解「Future～平和な社会を築くために」

2月6日 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会における研究発表

オ 生徒・教員による研修参加、成果発表、報告、懇談会など

豊田東高校は、ユネスコスクール世界大会高校生フォーラムに中部地域のユネスコスクール代表として参加させていただくことが決定した。これを受けて、生徒・教員ともに様々な研修やプレフォーラムに参加したほか、

数多くの場面で取組・成果を発表する機会をいただき、ESDの理念の普及に努めている。

〔主な研修・発表・報告・懇談会〕

8月17日～18日 2013年度文部科学省ユネスコパートナーシップ事業
「ユネスコ世界大会・高校生フォーラム」準備セミナー, 2013

参加者：ユネスコスクール世界大会担当教員（1名）

場所：大阪府立大学 i-site なんば

9月5日 豊田市長を表敬訪問

参加者：校長, 教頭, ユネスコスクール世界大会担当教員

場所：豊田市役所

11月2日～4日 UNESCO ASPnet アジア・太平洋地域高校生 ESD フォーラム in Sakai

参加者：ユネスコスクール世界大会代表生徒（4名）及び教員（1名）

場所：堺市産業振興センター

11月30日 ESDに関するユネスコ世界会議1年前イベント（口頭発表）

発表者：ユネスコスクール世界大会代表生徒（3名）

場所：豊田市産業文化センター

12月23日 ESD子どもフォーラム（ポスターセッション及び口頭発表）

発表者：協議役生徒（2名）, 進行役生徒（5名）

場所：名古屋国際会議場

12月28日 2013高校生ESDコンソーシアム in 愛知（ポスターセッション及びワークショップ）

発表者：地域連携代表生徒（2名）, ユネスコスクール世界大会代表生徒（3名）

場所：名古屋大学野依記念学術交流館

1月11日 ユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラム

岡山支援事業2013「岡山プレフォーラム」

参加者：ユネスコスクール世界大会代表生徒（2名）及び教員（2名）

場所：ホテルグランヴィア岡山

1月13日 ESDイヤーキックオフイベント（口頭発表及びトークイベント）

発表者：ユネスコスクール世界大会代表生徒（2名）

場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

2月4日 豊田市長を表敬訪問

参加者：ユネスコスクール世界大会代表生徒（4名）, 校長, 教頭, ユネスコスクール世界大会担当教員

場所：豊田市役所

2月15日 文部科学大臣との懇談会

参加者：ユネスコスクール世界大会代表生徒（4名）, 校長, 教頭, ユネスコスクール世界大会担当教員

場所：ホテルルブラ王山

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用

- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()